

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化处理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】 限局性上部尿路上皮癌に対する術前尿管鏡検査の有用性についての検討

【診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：西暦 2004 年 1 月から西暦 2018 年 1 月の間に受診
- 2) 受診科：泌尿器科
- 3) 対象疾患名：上部尿路上皮癌（腎盂癌・尿管癌）と診断された方

【診療情報等の項目】

診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、治療日数、CT 画像、摘出病理組織診断
【組織型、組織学的異型度、脈管浸潤、断端陽性】】

【研究目的】

上部尿路上皮癌（腎盂癌、尿管癌）は全尿路上皮癌における 5～10%と比較的まれな疾患ですが、近年増加傾向にあります。また、同じ尿路上皮癌である膀胱癌と比して進行は早く限局癌であっても初診時にはその半数は筋層浸潤を来した状態で発見されます。さらに手術で摘除を行っても約 30%の症例で再発、転移を認め、同じ尿路上皮癌である膀胱癌に比して予後不良な疾患です。近年、上部尿路上皮癌に対する腎温存療法や術前補助化学療法の有効性が期待されています。しかし、上部尿路上皮癌は術前の画像検査で正確な病期診断が難しく、適応症例の選択が難しい点が挙げられます。当院では以前より上部尿路上皮癌に対して積極的に術前に尿管鏡検査を行っており、術前の尿管鏡検査で正確な病期診断が可能であれば、腎温存手術や術前補助化学療法の必要な症例の選択に役立つと考えられます。

上部尿路上皮癌に対して術前尿管鏡検査を行った患者さんの臨床病理学的データや生存期間の解析を行うことで、上部尿路上皮癌患者さんの今後の治療に役立てる事ができればと考えています。

【研究（利用）期間】

久留米大学倫理委員会承認後から西暦 2022 年 3 月まで

【利益相反に関する事項】

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

研究責任者（使用する情報の管理責任者）：久留米大学医学部泌尿器科学講座 助教 西原 聖顕

問い合わせ担当者：久留米大学医学部泌尿器科学講座 西原 聖顕

電話：0942-31-7572（内線 3638）

E-mail: nishihara_kiyoaki@kurume-u.ac.jp